

下諏訪「生誕100年祭」遺族が協力

下諏訪町で開いている、観念美術で世界に知られた下諏訪町出身の芸術家松沢宥(ゆう)さん(1922~2006年)の「生誕100年祭」は、長女の松沢久美子さんとその夫の春雄さん(埼玉県)ら遺族の協力で開催にこぎつけた。久美子さんは没後15年を経て松沢宥さんが注目されていることを「うれしい」と感激。長く眠っていた絵画を含め大量な作品提供や、回顧する資料づくりに応じた。

観念美術や絵画 作品提供し紹介



会場で語らう久美子さん(左)と春雄さん

松沢宥さんは留学期間を除く1949年から84年まで諏訪実業高校定時制下諏訪分校の数学教員だった。昼間に芸術活動をしていたため、「子どもの頃の私は学校に行っていて創作風景を目にすることはあまりなかった」と久美子さん。一方、自宅のアトリエ「プサイの部屋」には前衛芸術家草間弥生さんら多くの芸術家が訪れ、「まるでサロンのようだった」と懐かしむ。

71年のオランダなど欧州歴訪には、大学生だった久美子さんも同行。海外の芸術家と親交を深め、展覧会に出展する「グローバルな」父の姿を実感した。生誕祭の一場場となっている町内の喫茶店「カフェ・タック」には海外での写真が多数飾られた。

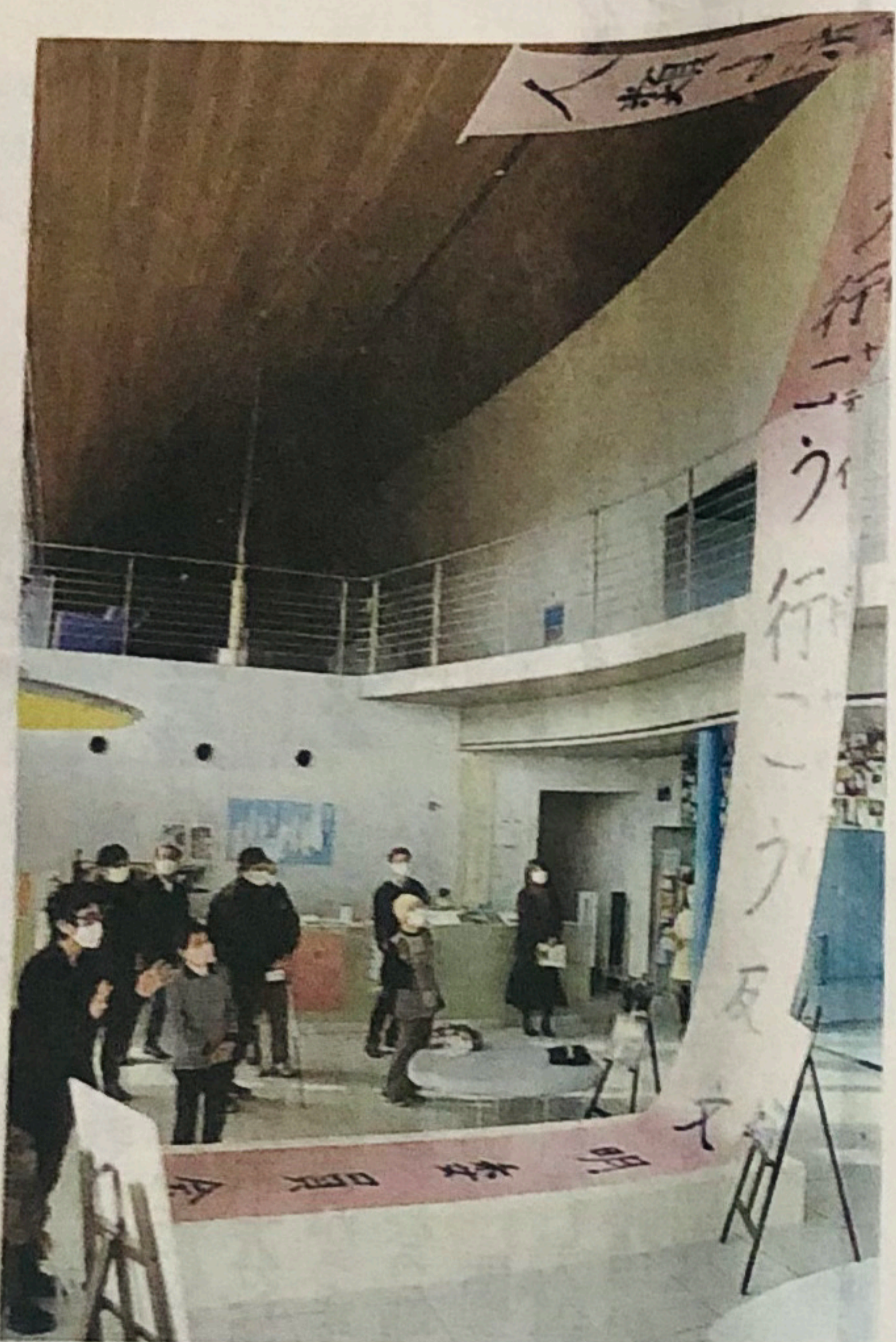
2015年、遺族が中心となり一般財団法人「松澤宥プロジェクト」などの作品を紹介したガイドツアー

松沢宥さんの世界に脚光



松沢宥さん

海外にも発信 理解深める



諏訪湖博物館でガイドツアー

観念美術で知られた松沢宥さんの芸術活動を紹介するガイドツアーが6日、出身地の下諏訪町にある諏訪湖博物館・赤彦記念館で開かれた。同館は松沢さんの「生誕100年祭」のメイン会場。ツアーは今後、週末などに定期開催を検討し、松沢

さんの芸術への理解を深めるきっかけにしよう。

100年祭の企画を担った、諏訪の信仰や民俗を研究する団体「スワニミズム」美術部の林聡一さん(57)は岡谷市に案内。約15人が参加した。ロビーに展示している「人類よ消滅し

よう行こう行こう 反文明委員会」と記された「消滅の幟」のレプリカについては「どうやったらかもっとよく生きていけるか」など、ポジティブなメッセージとも読める」と説明した。松沢さんの絵画も展示しており「色彩が豊かで、どれもレベルが高い作品」と紹介。下諏訪を拠点に、国内外の芸術家と交流しながら作品を海外に発信してきた松沢さんの姿も紹介した。

ツアー参加者の一人で、かつて町内で松沢さんを見かけたことがあるという同町の女性(83)は「松沢さんは仙人のような人というイメージだった。世界的な活動を知り興味が湧いた」と話していた。